

産炭地から新エネルギーモデルの町へ 新エネルギーで21世紀のまちづくり



概要版



川崎町地域新エネルギービジョン策定等事業

平成20年2月

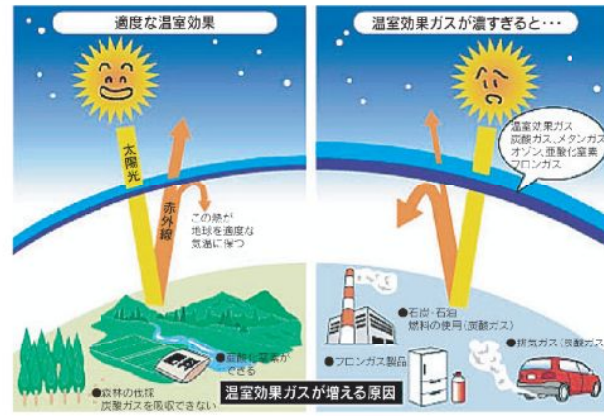
川崎町

新エネルギービジョン策定の背景

地球温暖化問題

世界的な石油や石炭などの化石燃料の大量消費により、エネルギー資源の枯渇が懸念されている一方、エネルギーの消費により排出される大量の二酸化炭素が、地球の気温を上昇させ、様々な環境問題を引き起こしています。

現在、このような「エネルギー問題」と「地球環境問題」を同時に解決していくことが、世界的に求められています。そのために世界各国が熱心に取り組んでいることがエネルギー消費の削減と非化石エネルギー導入の推進です。すなわち、自然エネルギー等の「新エネルギー」の利用拡大が世界的に重要な施策の一つと位置付けられています。



図：経済産業省HPより引用

新エネルギー導入へ

川崎町は、福岡県の中央部やや東側に位置し、町内では南部に山間部(土地全体の48%)が広がり、中央を流れる中元寺川沿いに住宅地を形成しており、中央では農地と住宅地が混在する町です。

かつては、大小多くの炭鉱を有し人口も石炭産業最盛期の昭和30年には40,878人と現在の倍近い人口でしたが、その年をピークに年々減少しています。近年も僅かながらではあるが減少傾向にあります。昭和40年代からの減反政策、木材の輸入化により本来の基幹産業である農林業は大きな打撃を受けています。

一方、人口減少とは逆行するように大量生産、大量廃棄の波は川崎町も例外でなく、ごみの処理問題に直面しています。現在、川崎町を含む1市3町による焼却場や最終処分場について協議が進められています。そのような状況下の中で、「新エネルギー」という再生可能なエネルギーの活用は直面する課題や未来のまちづくりへのステップのひとつにつながるものと期待されます。

川崎町で期待できる新エネルギー

今回の新エネルギービジョンでは、地域特性やアンケート調査などを基に、川崎町で期待できる自然エネルギーや未利用エネルギーを以下に示します。

太陽光発電、太陽熱利用、バイオマス資源、小型風力発電の利用といった4つの新エネルギーや環境教育の一環としてエコスクール事業も検討しています。また、クリーンエネルギー自動車の導入や、河川や農業用水路を流れる水を利用しての小水力発電も導入を検討します。

太陽光発電

太陽電池によって、太陽の光を直接電気に変換するしくみです。住宅の屋根やビルの屋根に設置するなどの導入ができます。

図：新エネルギー財団HPより引用

太陽熱利用

太陽熱を集めて給湯や冷暖房に利用するしくみです。公共施設・住宅などへ幅広く導入することができます。

図：新エネルギー財団HPより引用

バイオマス

生ごみ・間伐材・家畜糞尿など、さまざまな有機物を利用し、熱利用・発電・燃料製造などの方法で導入することができます。また、廃油からBDFの精製も行います。

図：農林水産省「バイオマスニッポン」より引用

小型風力

風の力を利用して電気を起こすしくみです。設置場所に依りて大きなものから小さなものまで導入することができます。

図：新エネルギー財団HPより引用

クリーンエネルギー自動車

CO₂の排出を減らし、石油資源を節約するしくみです。ハイブリッド車やBDF燃料自動車などの導入ができます。

図：新エネルギー財団HPより引用

小水力発電

河川や農業用水路などの水の流れを利用して電気を起こすしくみです。ハウス等の施設への電力供給やモニメントとして導入することができます。

図：新エネルギー財団HPより引用

そのほかの新エネルギーとして、雪氷熱利用、温度差エネルギー、廃棄物発電・熱利用、廃棄物燃料製造等のエネルギーや従来型エネルギーの新利用形態として、燃料電池、天然ガスコージェネレーションなどもあります。

新エネルギービジョン導入方針

住民と行政が協調したまちづくりを推進していくための基本的な指針として第4次総合計画が策定され、基本的施策を総合的かつ計画的に示し、実施計画へと反映させるべく取り組みが行われています。

本ビジョンの策定をきっかけにクリーンなまち川崎を確立し、「人」が中心的存在で、自然や子ども達の未来を守り抜く取り組みが大切な事となります。

川崎町の将来像(基本理念)「いきがい・ふれあい・安心なまち」 自然と歴史そして人が育む「心豊かないきがいの場」づくり

「環境」
ゴミのない
クリーンなまち

「エネルギー」
未利用エネルギーの
活用で地域の浮揚

「人」
自然と新エネルギーの
融合を共有

川崎町の持つ地域性

川崎町での新エネルギー導入の必要性

- ・賦存する未利用資源を廃棄物とせず、有効利活用します。
- ・川崎町の自然環境や歴史的史跡を次世代に引き継ぎます。
- ・新エネルギーを活用した仕事づくりでいきがいのある雇用の創出。

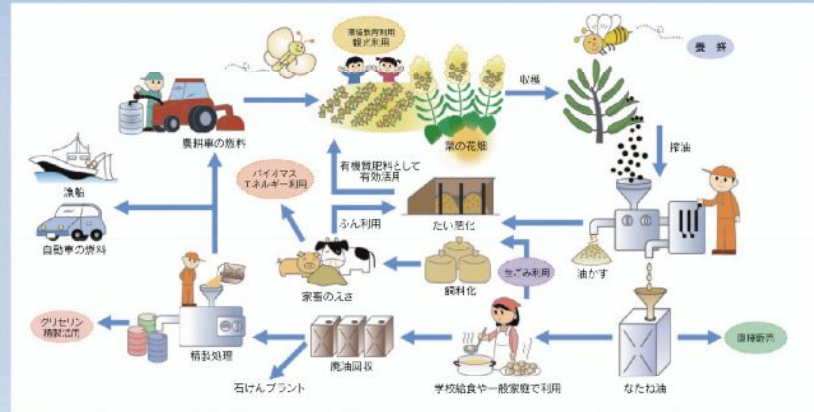
クリーンなまちづくりを進めるために

川崎町地域新エネルギービジョン

- 未利用エネルギーの有効活用を目指します
- 公共施設や集合住宅への新エネルギーの率先導入を目指します
- 減反農地等の利用でエネルギー循環・食育のしくみづくりを目指します
- 農林業の持続的発展のための新エネルギーの導入を目指します
- 子どもたちや町民への環境問題に対する意識啓発を目指します
- 災害に強いまちづくりを目指します

プロジェクト1

バイオマスエネルギー活用プロジェクト



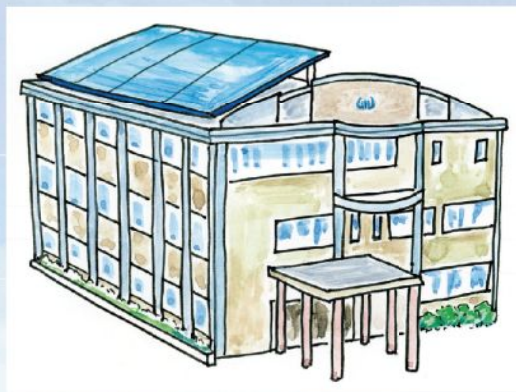
「バイオマス資源(有機性廃棄物・木質系・農業生産残渣等)」の有効的な活用は、環境保全に大きな役割を果たすと同時に川崎町や近隣の市町村が抱えているゴミ問題処理へのきっかけとなり、賦存する未利用エネルギーを有効に活用した複合的な事業展開は資源循環型社会構築や雇用創出につながります。

図：農林水産省「バイオマスニッポン」より引用

川崎町でのバイオマスプロジェクト推進に向けた、いち早い協働体制の構築がバイオマス資源活用モデル町として確立され、近隣市町村への波及効果も期待されます。また、域内の減反農地等を利用して菜の花やひまわりを栽培し、搾油された油を学校給食、病院食、家庭等で利用し、廃油はBDFやせっけんへとリサイクルされ公用車や農業用のトラクター等に利用されます。

プロジェクト2

太陽エネルギー活用プロジェクト



住民アンケートの結果、多くの方の意見が、まず、行政が主導的に導入を図り、地域住民に新エネルギーの利用促進を啓発することがもっとも重要であるとのことでした。そこで、川崎町役場庁舎や福祉センター、町立病院等で多くの住民が利用する場所への太陽光発電や太陽熱利用の導入を図ります。また、公共施設や公園は、災害時の避難場所に位置づけられるため、新エネルギーによる自家発電施設の導入や通学路等には、防犯のための街路灯の導入を推進します。

プロジェクト3

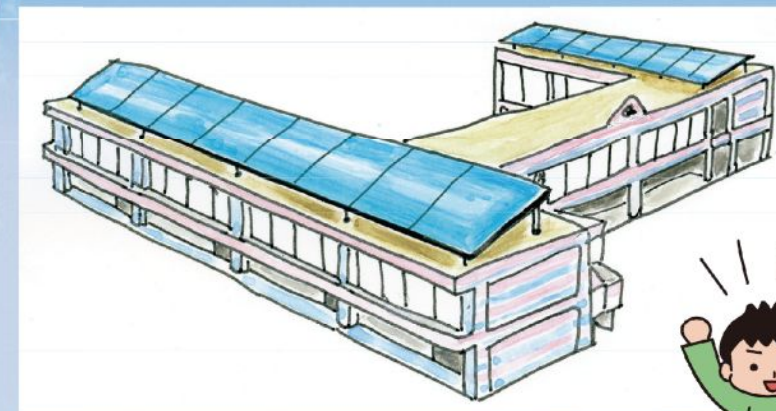
水エネルギー活用プロジェクト



川崎町を流れる、中元寺川をはじめとする多数の河川の水力を利用した小水力発電により野菜や花卉の温室栽培への利用をおこない、年間を通して安定した栽培ができる仕組みづくりへの貢献を目指すことが地域農業の発展につながります。

プロジェクト4

エコスクールプロジェクト



小中学校への太陽光発電の導入は、環境学習の一端を担い、かつ、未来のエネルギーシステムの一部を実感する場として機会の提供ができます。これにより新エネルギーへの関心を高め、限りある資源について学習できます。



プロジェクト5

クリーンエネルギー車活用プロジェクト



住民への普及促進にはまずは公用車のクリーンエネルギー化を図り、動く広報車としてハイブリッドカーの導入を進め、将来的には電気自動車への転換を視野に入れた取り組みが望まれます。また、バイオマスプロジェクトで精製されたBDF燃料を利用した「ゴミ収集車・町内巡回バス・町バス・福祉バス」の活用を目指すことが地域環境の保全につながります。

プロジェクト6

新エネルギー体験プロジェクト



川崎町の中で、人と物と新エネルギーが交流する場として川崎町農産物直売所「De・愛」があります。そこで小型風力発電・太陽光発電・太陽熱利用・小水力発電で場内の電力等の管理を行うと同時に、域内外より訪れた人々に新エネルギー体験をしていただくことや、直売所から伸びるサイクリングロード(雪舟ロード)を新エネルギーで充電された電動機付き自転車のリースや太陽光街路灯利用で、いきいき健康づくりの一環として機会を提供し、食・健康・新エネルギーに関心を持っていただける場として活用していきます。農産物直売所「De・愛」を中心とした新エネルギーによる21世紀のまちづくりを目指します。

川崎町新エネルギー導入プロジェクト

～6つの施策～

川崎町新エネルギー導入による循環型社会形成イメージ図



~これらの取り組みが二酸化炭素削減につながり地球温暖化対策になります~

ビジョン推進に向けて

ビジョン策定後は、住民や地域の事業者と強い接点を有する行政として、住民や事業者さらには教育・研究機関等との緊密な連携のもとに、新エネルギー導入を進めていきます。



このパンフレットに関するお問い合わせは



川崎町役場 企画財政課 企画調整係

〒827-8501 福岡県田川郡川崎町大字田原789-2
TEL 0947-72-3000 (内線300~303)